

平成 31 年 4 月 24 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26380337

研究課題名(和文)金融リテラシーと家計の貯蓄・借入行動

研究課題名(英文)Financial Literacy and Household Savings and Borrowing Behaviors

研究代表者

関田 静香 (SEKITA, Shizuka)

京都産業大学・経済学部・准教授

研究者番号：30583067

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：金融広報中央委員会が実施した「金融リテラシー調査2016」を用いて、金融リテラシーが家計の資産蓄積に与える影響について分析した。この研究の特徴は、1) 5種類の金融リテラシーがそれぞれ資産蓄積に与える影響について分析したこと、2) 金融リテラシーの内生性の問題を考慮して操作変数を用いた分析を行ったこと、3) 行動経済学的変数を説明変数に加えたこと、である。その結果、預金リテラシー、リスクリテラシー、負債リテラシーは、資産に有意にプラスの影響を持つ一方、インフレーションリテラシーと保険リテラシーは、資産蓄積に有意な影響を持っていないという結果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人々の金融リテラシーを向上させることの重要性の認識が世界中で広がりを見せる中、金融リテラシーが家計の金融行動に与える影響について国内外でさかんに研究がなされている。しかしながら、金融リテラシーの純粋な効果を得るための精緻な分析が十分になされているとは言えないし、金融に関する様々なリテラシーそれぞれが、金融行動にどのような影響を与えるのかも明確には知られていない。

そこで本研究では、通常はあまり説明変数として含まれていない行動経済学的変数を加え、操作変数を用いた分析を行った上で、種類ごとに分けた金融リテラシーが資産蓄積に与える影響がどのようなものであるのか考察している。

研究成果の概要(英文)：Using the micro data on "Financial Literacy Survey 2016" which was conducted by Central Council for Financial Services Information, we analyzed the effects of financial literacy on wealth accumulation. The contributions of this research are that we decompose financial literacy into 5 sub-categories (Deposits, Risk, Debt, Inflation, and Insurance literacy) and analyze their effects on wealth accumulation respectively, that we deal with endogeneity problem of financial literacy and conduct estimations using instrumental variables, and that we add behavioral economics variables in explanatory variables. We found that while Deposits literacy, Risk literacy, and Debt literacy have significant and positive impacts on wealth accumulation, Inflation literacy and Insurance literacy do not.

研究分野：家計行動の実証分析

キーワード：金融リテラシー 金融教育 行動経済学 資産蓄積

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

寿命が延びる中、少子高齢化による年金不安、確定拠出年金(401k)導入によって、個人はより自己責任で保有資産を管理しなければならない状況にある。このような環境の中、複雑性を増す金融商品の内容やその投資方法を個人は理解しているのだろうか?また、十分に理解していないとしたらそれは、人々の経済的選択・行動にどのような影響を与えるのだろうか?これらを明らかにするために行われてきた主な先行研究について紹介する。

テーマA: 金融リテラシーと資産蓄積

Bernheim (1998) は、アメリカ人が老後生活に必要なだけの貯蓄を行っていないことを危惧し、その要因の一つとして金融リテラシーの低さを提示した。実証分析の結果、所得や学歴などをコントロールしても、予想通り、金融についてのテストスコアが高いことは老後貯蓄を増やすことを示している。また、Van Rooij, Lusardi, and Alessie (2012) は、金融リテラシーの内生性を考慮した上でも、金融リテラシーのレベルが高い人ほど、より多額の純資産を有していることを示している。

テーマB: 金融リテラシーと借入

Lusardi and Tufano (2009) は、金融リテラシー(返済期間や返済金額の計算方法など)が乏しい人ほど、ペイデイローンといったコストの高い借入を行う傾向があることを示している。また、Gathergood (2012) は、金融リテラシーとその他行動経済学的要因を同時にコントロールして、過剰債務への影響を分析した。その結果、ほとんどのケースにおいて、金融リテラシーよりもむしろセルフ・コントロールの欠如が過剰債務に著しい影響を与えていることを示している。

2. 研究の目的

当初、上記に掲げたテーマAとテーマBについて分析を行う予定だったが、テーマAの分析に予想以上に時間がかかったため、テーマBを断念し、テーマAに集中して研究を行っている。

金融広報中央委員会が実施した「金融リテラシー調査2016」の個票データを用いて、金融リテラシーが資産蓄積に与える影響について分析を行う。

金融リテラシーが資産蓄積に与える影響について、先行研究では、金融に関する質問項目に対する正解数を用いて、資産蓄積に与える影響を分析するものがほとんどだった。しかし、金融に関する内容は多岐にわたる。預金に関するもの、負債に関するもの、リスク分散に関するものなど様々であり、それぞれが、資産蓄積に対し、異なる影響を持つと考えられる。そこで、本研究では、金融リテラシーの指標として、5つの指標(預金リテラシー、リスクリテラシー、負債リテラシー、インフレーションリテラシー、保険リテラシー)を用い、それぞれが資産蓄積に与える影響を分析する。この分析を行うことによって、どのようなリテラシーが資産蓄積において重要なものが明確になるし、金融教育を設計するにあたっての有益なヒントにもなるだろう。

また、金融リテラシーが資産蓄積に与える影響について分析するにあたっては、金融リテラシーの内生性の問題を考慮しなければならない。なぜなら、例えば、より多くの資産を保有している人ほど、危険資産への投資を通じて、より多くの金融知識を持っているかもしれない(Simultaneity)。また、金融リテラシーは、abilityといった観察できない変数と関係があり、また、その変数が資産蓄積にも影響を与えているかもしれない(omitted variables)。さらに、アンケート調査のデータを用いて測定される金融リテラシーには measurement errorの問題が発生していると考えられる。そこで、本研究では、様々な先行研究を参考にし、5種類の金融リテラシー変数それぞれについて操作変数を考え分析に用いる。

そして、先行研究ではあまり用いられてこなかった行動経済学的変数も、説明変数に加えて、分析を行う。なぜなら、行動経済学的変数が、金融リテラシーと相関を持っている可能性があるため、コントロールしなければ、純粋な金融リテラシーの影響が捉えられない可能性があるからである。

3. 研究の方法

研究をスタートさせた当初は、2009年度に大阪大学グローバルCOEプログラム「人間行動と社会経済のダイナミクス」により行われた「くらしの好みと満足度調査(日本)」の個票データを利用することが適当と考え分析を行っていた。しかしその後、金融広報中央委員会が「金融リテラシー調査2016」を実施し、その調査が大規模であり、多くの金融リテラシーに関する質問を含んでいることから、その個票データを利用することが、本研究を行うにあたっては適当と考え分析に利用している。

4. 研究成果

11の金融に関するクイズを用いて、人々のリテラシーのレベルを測定した。使用した質問項目の内容は以下である。

1) 単利計算(問18)

100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。それ以外、この口座への入金や出金がなかった場合、1年後、口座の残高はいくらになっているのでしょうか。利息にかかる税金は考慮しないでご回答ください。(1つだけ)【必須入力】

- 2) 複利計算 (問19)
では、5年後には口座の残高はいくらになっているのでしょうか。利息にかかる税金は考慮しないでご回答ください。(1つだけ)【必須入力】
1. 110万円より多い
 2. ちょうど110万円
 3. 110万円より少ない
 4. 上記の条件だけでは答えられない
 5. わからない
- 3) リスクとリターンの関係 (問21_3)
平均以上の高いリターンのある投資には、平均以上の高いリスクがあるものだ
1. 正しい
 2. 間違っている
 3. わからない
- 4) リスク分散についての理解 (問21_4)
1社の株を買うことは、通常、株式投資信託()を買うよりも安全な投資である
何社かの株式に投資する金融商品
1. 正しい
 2. 間違っている
 3. わからない
- 5) 保険の基本的な機能 (問25)
保険の基本的な働きに関する次の記述のうち、適切なものはどれでしょうか。(1つだけ)
【必須入力】
1. リスクの発生頻度は高いが、発生すると損失が大きい場合に有効である
 2. リスクの発生頻度は低いが、発生すると損失が大きい場合に有効である
 3. リスクの発生頻度は高いが、発生すると損失が小さい場合に有効である
 4. リスクの発生頻度は低いが、発生すると損失が小さい場合に有効である
 5. わからない
- 6) 状況の変化による保険契約の見直し (問26)
子供が独立した50歳の男性が生命保険(終身保険)を見直す場合、適切なものはどれでしょうか。他の事情に変化はないものとします。(1つだけ)【必須入力】
1. 死亡保障の増額を検討する
 2. 死亡保障の減額を検討する
 3. 特に見直す必要はない
 4. わからない
- 7) 借入期間と利子の関係 (問21_2)
住宅ローンを組む場合、返済期間が15年の場合と30年の場合を比較すると、通常、15年の方が月々の支払い額は多くなるが、支払う金利の総額は少なくなる
1. 正しい
 2. 間違っている
 3. わからない
- 8) ローンの返済期間の計算 (問31)
10万円の借入れがあり、借入金利は複利で年率20%です。返済をしないと、この金利では、何年で残高は倍になるのでしょうか。(1つだけ)【必須入力】
1. 2年未満
 2. 2年以上5年未満
 3. 5年以上10年未満
 4. 10年以上
 5. わからない
- 9) 債券価格と利子率の関係 (問22)
金利が上がったら、通常、債券価格はどうなるのでしょうか。(1つだけ)【必須入力】
1. 上がる
 2. 下がる
 3. 変化しない
 4. 債券価格と金利の間には何の関係もない
 5. わからない

10) インフレーションについての理解(問20)

インフレ率が2%で、普通預金口座であなたが受け取る利息が1%なら、1年後にこの口座のお金を使ってどれくらいの物を購入することができますか。(1つだけ)【必須入力】

1. 今日以上に物が買える
2. 今日と全く同じだけ物が買える
3. 今日以下しか物が買えない
4. わからない

11) インフレーションについての理解(問21_1)

高インフレの時には、生活に使うものやサービスの値段全般が急速に上昇する

1. 正しい
2. 間違っている
3. わからない

上記11問の平均正解数は約6問であるため、回答者の金融リテラシーのレベルが高いとは言い難い。また、どのような属性が金融リテラシーに影響を与えるのかを分析すると、男性、高齢者、自営業者、高学歴者、高所得者、自己抑制力のある人、学校もしくは職場で金融教育を受ける機会があった人、家庭で保護者からお金の管理について教わる機会があった人が、金融リテラシーのレベルが高いという結果も得た。一方、パートタイムで働く人、近視眼的な人、損失回避的な人、危険回避的な人、自信過剰な人は、金融リテラシーのレベルが低いという結果を得た。

金融リテラシーが資産蓄積に与える影響について、OLS推定したところ、11個の質問項目の正解数を金融リテラシーとした場合、金融リテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額が約171万円多い傾向があることが分かった。また、金融リテラシーを5種類に分けて推定したところ、預金リテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約209万円多く、リスクリテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約181万円多く、保険リテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約191万円多く、負債リテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約195万円多く、インフレーションリテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約211万円多いという結果を得た。OLS推定においては、どの種類の金融リテラシーについても、同程度、金融資産保有額に顕著な影響をもたらしている。また、行動経済学的変数については、近視眼的な人、自己抑制力のある人、リスク回避的な人は、資産額がより低く、自信過剰な人は、資産額がより高いという結果を得た。

次に、操作変数を用いたGMM推定をしたところ異なる結果を得た。まず、11個の質問項目の正解数を金融リテラシーとした場合、金融リテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額が約444万円多い傾向があることが分かり、OLSで推定された値よりもはるかに大きな影響が見られた。また、金融リテラシーを5種類に分けて推定すると、預金リテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約641万円多く、リスクリテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約505万円多く、負債リテラシーのレベルが1だけ高いと、金融資産保有額は約414万円多いというように、この場合も、OLS推定時より、各リテラシーの変数は、資産蓄積に対して顕著な影響を与えている。しかし、インフレーションリテラシーと保険リテラシーについては、資産蓄積に有意な影響を与えていないという結果を得た。

したがって、金融リテラシーを、預金リテラシー・リスクリテラシー・保険リテラシー・負債リテラシー・インフレーションリテラシーの5種類に分けた場合、預金リテラシー・リスクリテラシー・負債リテラシーについては、資産蓄積にプラスの著しい影響を与えており、金融教育を提供する際には、これらのリテラシーを特に強化するのが得策かもしれないことを示唆している。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

Shizuka Sekita, Vikas Kakkar, Masao Ogaki, Wealth, Financial Literacy and Behavioral Biases: Evidence from Japan, Keio-IES Discussion Paper Series, 査読無、2018-023、2018、1-32

[学会発表](計1件)

Shizuka Sekita, Wealth, Financial Literacy and Behavioral Biases: Evidence from Japan, Southwestern Finance Association, 2019年3月

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：大垣 昌夫
ローマ字氏名：(OGAKI, Masao)

研究協力者氏名：Vikas Kakkar
ローマ字氏名：(KAKKAR, Vikas)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。